

シオン通信

大宮シオン・ルーテル教会 礼拝説教集

2007 年 11・12 月号 第 15 号

日本ルーテル教団

大宮シオン・ルーテル教会

〒331-0814

さいたま市北区東大成町 1-229

phone/fax : 048-663-0215

URL <http://omiya.church.jp>

Email omiya@church.jp

大宮シオン・ルーテル教会

梁 熙 梅(やん・ひめ)

クリスマスおめでとうございます

イエスさまのお生まれを心からお祝いします。そして、この方の愛と平和が皆さん一人ひとりの上に豊かにありますように祈ります。

教会では 23 日をクリスマス礼拝として祝い、24 日の夜にはクリスマス前夜祭が行なわれました。多くの方々とともにイエスさまのお生まれを祝うことができたことを感謝します。

12 月がこんなに寒かったのかな？と思うくらい、この頃はとても寒い日が続いていますが、皆さんはお元気で過ごしのことと思います。シオン通信の発行が遅れてしまったことをお詫びいたします。教会の仕事は、時間の経過に比例して増えていくものですね。これが神さまの豊かさでしょうか。この時点で改めて教会の働きを見つめ直しています。そして、これをもってシオン通信が遅れてしまった言い訳をさせていただきます。

この一年間、皆さんはこのわたしのために多くの祈りをくださいました。皆さんの祈りに支えられてこそ一年の働きを無事に終えるときを迎えていることと、心から感謝いたします。今年は、大切な教会の仲間が三人も神さまのみ許へ召されました。心の準備ができないまま仲間たちをみ許へ送りながら、神さまが呼ばれれば私たちは状況を問わず、直ちにこの世での歩みの足を止めて、つかんでいたものから手を放さなければならない、その場で応えていかなければならないものなのだと、その度に知らされました。けれど、切実に思わされながらも時間が経つとすぐこの世の歩みに執着してしまう、そんな自分がいたりします。このような自分がまた一年の終わり頃に、クリスマスの主の働きのお陰で一年間の歩みを振り返っていますが、来年こそは神さまのみ旨を生きる者でありますようにと。来年こそはみ旨にふさわしい働きができますように祈っています。

また、この年は大宮教会が自立へ向けて具体的に歩み出すことができた、大切な年でした。来年からは自給教会として歩み始めますが、神さまの豊かな働きかけがありますように祈っています。皆さんも祈りの中に大宮教会のことを覚えていただければ幸いです。

私たちのためにお生まれになった救い主イエスさまの働きかけと祝福が皆さんの上に豊かにありますように。そして、新しい年にも皆さんがこの方に守られる年でありますように。

「神はその独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」(ヨハネによる福音書 3 章 16 節)

聖書のみことば 12月23日(主日)クリスマス礼拝

ルカによる福音書 1:46～55

46 そこで、マリアは言った。47 「わたしの魂は主をあがめ、わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます。48 身分の低い、この主のはしためにも目を留めてくださったからです。今から後、いつの世の人でもわたしを幸いな者と言うでしょう、49 力ある方が、わたしに偉大なことをなさいましたから。その御名は尊く、50 その憐れみは代々に限りなく、主を畏れる者に及びます。51 主はその腕で力を振るい、思い上がる者を打ち散らし、52 権力ある者をその座から引き降ろし、身分の低い者を高く上げ、53 飢えた人を良い物で満たし、富める者を空腹のまま追い返されます。54 その僕イスラエルを受け入れて、憐れみをお忘れになりません、55 わたしたちの先祖におっしゃったとおり、アブラハムとその子孫に対してとこしえに。」

説 教

わたしのクリスマスソング

昔、大昔、まだ世界でクリスマスが行なわれる以前のこと。一人の少女が神を褒め称えてこのように歌いました。

「わたしの魂は主をあがめ、わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます。身分の低い、この主のはしためにも、目を留めてくださったからです。今から後、いつの世の人でも、わたしを幸いな者と言うでしょう、力ある方が、わたしに偉大なことをなさいましたから。…」マグニフィカート。つまり、これはマリアの賛歌。

この賛歌は、マリアが造り上げた賛歌ではありません。その昔、大昔、イスラエルの民がエジプトを出て、海が分かれる奇跡を身近に体験しながら、神の偉大さを直接体験したことを歌ったのがこの歌でした。当時、預言者ミリアムが他の女性たちと一緒に楽器を鳴らし、踊りながら歌った歌です。そして、次には、士師デボラの口

を通して歌われ、そしてその次にはサムエルの母ハンナの口を通して歌われた歌がこの歌です。この人たちのおかれた立場から考える時、この歌は、個人的、社会的、道徳的、経済的面において解放された体験を神から頂いているという確信をもったものだけが歌える歌ですね。そして何より、抑圧を受けて小さくされている者たちからこそ神の目は留められており、この神さまによって自由に人生のヴィジョンを描くことができたということに感謝する歌です。

今マリアのお腹には「イエス」という名の子が宿られています。マリアは、天使から「あなたは身ごもって男の子を産む…」と告げられて、「お言葉通りこの身になりますように」と大胆に返事はしたものの、しかし、天使と分かれるや否や、いとこの

エリザベトを訪れました。それは、天使が
いとこエリザベトも身ごもっていて、もう
6ヶ月もなっていると告げたからです。そ
の確認と、そして思いもかけないわが身の
出来事を受け入れる心の準備が、マリアに
は必要だったでしょうか。聖書はマリアが
「急いで」エリザベトのところを訪ねたと
書いています。しかも三ヶ月間エリザベト
のところに滞在したと書いています。「急
いで」訪ねて、三ヶ月間も留まらなければ
ならなかった心境の中で、そこで、マリア
は、自分の身に起きた出来事を通して、神
の偉大な力が働いていることを確信する
ことができました。ですから、彼女はこ
のように神を褒め称えずにはいられなかつ
たのです。

「わたしの魂は主をあがめ、わたしの霊は
救い主である神を喜びたたえます。身分の
低い、この主のはしためにも、目を留めて
くださったからです。」

「身分の低い、このはしためにも目を
留めてくださったからです」。

小さく弱いひとりの女性の人生を通し
て偉大なる神の出来事が、今その幕を開け
ようとしていたのです。この小さく弱い
女性を通して働かれる神の出来事は、人間
の理性や科学的な事実を完全に無視して
起こる出来事です。人間の理性や
賢さをむしろあざ笑うような出来事なの
です。人間にとってできれば避けたいとこ
ろ、できれば避けて通りたい状況を神さま
は用いられるのです。できれば避けたい状
況、そこは、私のような者は本能的にあら

がいたくなるようなところであり、
敬虔な信仰をもって清い者になって神さ
まを信じようとする人の敬虔さなど、どこ
にも見当たらないところ。そんなところに
神は存在しようとされるのです。身分が低
く、徹底的に貧しく、小さくされた一人の
女性において神は存在しようとされるの
です。ですから、私のような愚かなものは、
その貧しいところに降りて来られる神を
何とか助けようと、自分の理性や知識や賢
さをもって、科学的な事実を持って助けよ
うと頑張りますが、しかし、それこそ人間
の愚かな、傲慢な姿に過ぎないのだと、私
たちは貧しく、小さく、弱いマリアが神を
褒め称える賛歌を通して聞くのです。ただ
へりくだって、低くされる人だけが低く
降ってきた神を信じることができるのだ
と、この賛歌は語りかけているのです。

低くへりくだらなければ、低く降りて
きた神に出会うことができないと聞いて
知っているけれど、けれど、「神さま、わ
たしが苦しいときに、貧しいときに、奇跡
を起こして助けてください。」イスラエル
の民がエジプトの軍隊に追っかけられて
いたときに海が二つに分けられる奇跡を
起こされたように、この私にも、私がこの
状況から抜け出ることができるように、奇
跡を起こしてくださいと私たちは祈りま
す。しかし、今まで一度もこの祈りが適え
られた覚えがありません。神の奇跡は一度
も私の人生に起こりませんでした。貧しい
者はいつの時代にも貧しくされ、暴力や戦
争の下で苦しむ人たちは一方的に苦しん

でいます。地震や自然災害によって大勢の人が尊いいのちを奪われる際にも、神さまは沈黙しておられました。神さまは、私たちが望むところにおいては奇跡を行なわれないと決められたのでしょうか。

けれど、今日、小さきもの、弱いマリアを通して神さまは、ご自分の偉大なる業を、奇跡を行なっておられるのです。

というのは、神さまは人の常識や賢さや知識をひっくり返そうとしておられるのです。つまり、私たちが「失ってしまった」と失望しているところで、神さまは「見つけられた」と語ってくださり、私たちが「もう裁かれた」と叫ぶところで、神さまは「救われた」と語りかけておられる。人が無関心で、傲慢な態度で、見て見ないふりをして通り去るところで、神さまは留まってくださり、目を留めて、働きかけておられるのです。人間が軽蔑し、価値のない者と判断してしまったところで、神は祝福を宣言されるのです。人がその人生を思い返してみたら恥ずかしくて、だからこのような私なんか見捨てられたに違いないと絶望するとき、つまり、長い人生の間、自分は神さまから遠く離れてしまっていたと、つまり貧しくされて、苦しんでいる隣人のことなど思いにもかけないで過ごしてきたことに気づき、恥じるところにこそ、神はともにおられ、祝福しておられるということ。そこでこそ、貧しき隣人の友となりてはじめて人は、実は、神さまが私たちの傍らにおられた、ずっと寄り添って歩んでおられた、その神に出会うのではないのでしょうか。つまり、人間のすべての常識を

ひっくり返して、何もないところからあるようにされる神さまの情熱とも言える愛がこの私の人生に注がれ、私たちが目に見える輝かしい奇跡を祈っている時、神さまは目に見えない姿をして、この私をご自分が存在する場として造り返しておられたのです。

今確かにマリアは、目に見えるかたちで神さまの奇跡を体験しています。ですから、彼女は祝福された女性です。けれど、このマリアが主の母となり、神さまの恵みの奇跡を体験した者として神を褒め称えているとして、私たちが彼女を祭る祭壇を建てる必要はありません。そうではなく、彼女と一緒に神を礼拝すること、これが私たちに求められていることなのです。つまり、低さに目を留めてくださり、低き者を選ばれた神を、マリアと一緒に礼拝するのです。飼い葉桶に寝かされ、この世の人々が一人も滅びないで救われるために、そのために来られた方を、祝福されたマリアと共に礼拝するように、マリアが歌う賛歌を共に歌うように。そのため、私たちは、今日をクリスマスとして祝い、ベツレヘムの馬小屋の飼い葉桶の前に招かれています。飼い葉桶の前で、いったい、私たちはどのようにしてそこにマリアと一緒にいることができるのでしょうか。赤ん坊イエスに跪いている羊飼いのようにいることができますでしょうか。それとも、贈り物を携えてきた博士たちのようにいることができますでしょうか。マリアが神の母となったその場所で、神が飼い葉桶という低みにおい

てこの世にこられたその場所で、私たちは
いったい何を演じることができるでしょ
うか。

世界で初めてのクリスマスが祝われる
夜、マリアとヨセフが見守る中で飼い葉桶
の中に寝かされている神を祝うために、こ
の世で富んでいる人たちや権力者たちは
誰も行こうとしませんでした。ヘロデ王も
やはり行きませんでした。なぜなら、神は
低い者と共におられるゆえに、低きものと
共におられるところにおいてこの世の王
座は揺らぐからです。富んでいる人たちや
権力者たちは躓くしかないので、高みに
いる者が転落するところは、飼い葉桶の
神の前だからです。神が貧しい者を豊かに
し、飢えている者のお腹を満たしてくださ
る一方で、富んでいる者のお腹を空腹にさ
せ、力ある権力者たちをその座から引き降
ろすのですから、だから祝いに行くことが
できないのです。

身分の低いマリアがいて、余儀なく差
別を受けている羊飼いたちがいて、異邦人
だと蔑視されている博士たちがいるところ。
これらの低くされた人たちと共に生きる
ために来られた神ですから、その神を拝
むために権力ある者は近寄ることができ
ないのです。力を失いたくないからいけない
のです。自らの賢さを誇り続けていたい
から、理性に頼って生きたいから、だから、
近寄ることができなかったのです。ただ、
低くへりくだる人だけが飼い葉桶の傍に
立つことができるのです。たとえ、何かを

演じることができないにしても、そこに立
たされるのです。

私たちは今日、救い主のお生まれを
祝っています。このクリスマスの主人公、
低く降る神の前に立たされた者はだれで
も明らかにされることでしょう。というの
は、ここにいる私たちが毎年迎えるクリス
マスを実際に受け止めることができてい
ないことが、自分の置かれた状況に振り回
されてばかりいることが明らかにされる
ことでしょう。実は、私たちが理性や賢さ
に頼って生きようとしているために真剣
にクリスマスを受け止められないことも
明らかにされることでしょう。そして、こ
の世の権力に頼ろうとするためにそれに
脅かされてしまうということなども明ら
かにされることでしょう。そして、力なき
もの、貧しい者たちと一緒に飼い葉桶の傍
らに立つことを否定してきたことが、飼い
葉桶の神の前で明らかにされることで
しょう。それは、そうならなければ、私が
私としていられなくなるからです。

マリアは、彼女自身神の前で明らかに
された人として祝福された女と呼ばれる
ようになりました。何もかも神の前に委ね
神の力により頼むしかなかった出来事
を通して、彼女は明らかにされたのでした。
貧しく小さき彼女は、神のみが、飼い葉桶
の神のみが彼女の生きる術になりました。
ですから、マグニフィカートを歌えるので
す。ヘロデのような天下の権力を二義手い
るようなものであっても、飼い葉桶の神の

前から退かなければならないと、大胆に歌えるのです。どれだけ富んでいる者でも、飼い葉桶の神の母となられた彼女には、風邪に飛び散るもみ殻のようなものにしか思えないのです。このマリアと一緒に飼い葉桶の傍らに立ち、そして礼拝するように招かれている私たちは、マリアとともにマグニフィカートを歌いたいのです。本当はそんな資格などない者だけど、本当は取るに足りない者なのだけど、飼い葉桶の神のゆえに、マリアと一緒に真心から神を褒め称えたいのです。

「わたしの魂は主をあがめ、わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます。身分の低い、この主のはしためにも、目を留めてくださったからです。今から後、いつの世の人も、わたしを幸いな者と言うでしょう、力ある方が、わたしに偉大なことをなさいましたから。…」

皆さんの人生が飼い葉桶の神によって豊かに造り返られ、神を褒め称える豊かな人生でありますように。そして、このマリアの賛歌が他誰でもなく皆さんの賛歌となり、皆さんの人生の歩みの参加として、この世を歩む限り歌われますように。クリスマスの主の祝福が皆さんの上に豊かにありますように祈ります。

祈ります。

私たちに飼い葉桶の神の前に立てるように資格を与え、そして、私たちの人生も飼い葉桶の神の命の支えによって救われるようにしてくださった神さま。あなたの名は尊く、その憐れみは世々に限りがありません。私たちは、飼い葉桶の神の救いの道を歩む者とされましたから、私たちの心に神さまを褒め称えるように歌を授けてくださいましたから、どうぞ、私たちの人生が神さまを真心から褒め称えて歩む人生でありますように。私たちの歩みが飼い葉桶の神の歩みに寄り添う歩みでありますように。ここに集う一人ひとりの心の願いが飼い葉桶の神のゆえに御心に留められますように。私たちのためにお生まれになりました飼い葉桶の主イエスさまのみ名によって祈ります。アーメン。



聖書のみことば 旧約聖書

サムエル記上 16 章 1～13 節

1 主はサムエルに言われた。「いつまであなたは、サウルのことを嘆くのか。わたしは、イスラエルを治める王位から彼を退けた。角に油を満たして出かけなさい。あなたをベツレヘムのエッサイのもとに遣わそう。わたしはその息子たちの中に、王となるべき者を見いだした。」2 サムエルは言った。「どうしてわたしが行けましょうか。サウルが聞けばわたしを殺すでしょう。」主は言われた。「若い雌牛を引いて行き、『主にいけにえをささげるために来ました』と言い、3 いけにえをささげるときになったら、エッサイを招きなさい。なすべきことは、そのときわたしが告げる。あなたは、わたしがそれと告げる者に油を注ぎなさい。」4 サムエルは主が命じられたとおりにした。彼がベツレヘムに着くと、町の長老は不安げに出迎えて、尋ねた。「おいでくださったのは、平和なことのためでしょうか。」5 「平和なことです。主にいけにえをささげに来ました。身を清めて、いけにえの会食に一緒に来てください。」サムエルはエッサイとその息子たちに身を清めさせ、いけにえの会食に彼らを招いた。6 彼らがやって来ると、サムエルはエリアブに目を留め、彼こそ主の前に油を注がれる者だ、と思った。7 しかし、主はサムエルに言われた。「容姿や背の高さに目を向けるな。わたしは彼を退ける。人間が見るようには見ない。人は目に映ることを見るが、主は心によって見る。」8 エッサイはアビナダブを呼び、サムエルの前を通らせた。サムエルは言った。「この者をも主はお選びにならない。」9 エッサイは次に、シャンマを通らせた。サムエルは言った。「この者をも主はお選びにならない。」10 エッサイは七人の息子にサムエルの前を通らせたが、サムエルは彼に言った。「主はこれらの者をお選びにならない。」11 サムエルはエッサイに尋ねた。「あなたの息子はこれだけですか。」「末の子が残っていますが、今、羊の番をしています」とエッサイが答えると、サムエルは言った。「人をやって、彼を連れて来させてください。その子がここに来ないうちは、食卓には着きません。」12 エッサイは人をやって、その子を連れて来させた。彼は血色が良く、目は美しく、姿も立派であった。主は言われた。「立って彼に油を注ぎなさい。これがその人だ。」13 サムエルは油の入った角を取り出し、兄弟たちの中で彼に油を注いだ。その日以来、主の霊が激しくダビデに降るようになった。サムエルは立ってラマに帰った。

説 教

目に見えるところによらず

王がまだいなかったときイスラエルでは士師たちが活躍していました。デボラやサムソンのような有名な人たちが活躍していた士師です。しかし、人々はカリスマ的な存在が自分たちを引っ張ってくれ

ることを願っていました。つまり、王を求めるようになったのです。それは、周りの国には王がいて、王のいる国は強くなっていき、その国によってイスラエルが脅かされそうになってきたのか大きな原因にな

りました。ですから、あの強い国と同じようにわが国にも王様を立てて強くなろうではないかということだったのです。

しかし、神さまのご意見は人々の意見に反対でした。王を立てることはあなたがたが王の奴隷になることだよ、あなたがたは王の兵士となって戦いに行かなければならないのだよと、神さまは人々のことを思い、イスラエルが王制国家になることを止めさせようとしてましたが、しかし、人々は、たとえ自分たちが王の奴隷になって、兵士になって戦わなければならなくなってもいいといいます。人々は、最後まで王を立てることを諦めませんでした。

結局神さまは民たちの願いを受け入れ、預言者サムエルを通してサウルという人を王と立てるように命じられます。このような過程の中でサウルがイスラエルの第一の王として選ばれました。ですからサウルは、民たちの間で、期待の星として立てられた王だったのです。美しい若者で、彼に匹敵する魅力を持つ者はイスラエルにいないと記されるほど魅力ある人でした。民の誰よりも肩から上の分だけ背が高かったのです。そして、この男が神の民を強い国、ペリシテ人の手から救うとサムエルに継げたのは、人々の願いに負けて、結局王を立てることに思いを翻された神ご自身でした。

みんなの期待通り、サウルは敵との戦いにおいてもよく戦いました。しかし、サウルのやり方はサムエルが指示するようなやり方ではなく、自分が考えていいと思

うようなやり方で敵と戦うのでした。合理的に、新しいやり方で戦いに望むようになったのです。ついには、祭司だけが関わるようになっていく祭儀の方にまで手を伸ばし、やってはいけないことまで犯していくようになっていきます。人間の頭から考えたときにはそれらしく思えることであっても、神によって定められているルールを破っておいて人間にとってそれらしさを主張するのは、合理化がもたらす人間の傲慢な姿勢にほかなりません。

もはや、サウルは、王という位置から退かなければならないときを迎えなければなりませんでした。初めの思いを翻され、サウルを王として選ぶように命じられた神は、今や、サムエルを叱責しています。「いつまであなたは、サウルのことを嘆くのか。わたしは、イスラエルを治める王位から彼を退けた。角に油を満たして出けなさい。あなたをベツレヘムのエッサイのもとに遣わそう。わたしはその息子たちの中に、王となるべき者を見出した。」(サム上 16:1)。

もう年を取っているサムエルに、その長い人生の年月の中で、「人生には思い通りに行かないことがほとんどである」ということはよく知っていることでしょう。しかし、今度こそは、神さまが思いを翻されたとき、あのときこそは神のみ旨と信じて最善の努力をしてきたのに、しかし、今、神は別の道を示しておられるのです。「ベツレヘムのエッサイのもとへ行け！」と。いったい、神のみ旨はどこにあるのか、今

のサムエルにはわからなくなりました。まさか…こんなことがサウル王に知られたらどうなることか…危険さえ感じ取りながら、年を取ったサムエルは重い腰をあげてベツレヘムへ向かいます。

「ベツレヘム」は、昔は小さくて静かな田舎でした。イエスさまがお生まれになった場所として今は聖地になって観光客が訪れて盛んになっていますが、昔は本当にみすばらしいところだったようです。そんなところへ偉大な預言者サムエルが来るのですから、町中は大騒ぎになりました。もしかしたら神の裁きのことでも告げるために訪れているのかと思ったのかもしれない。揺れ動く町の人たちに、裁きではなく「平和を告げに来た」と言って安心させ、そのためのいけにえをささげる準備をさせ、みんな身を清めて集るように勧めました。そして、エッセイの家族にも同じく勧めました。サムエルの重大な任務がここで始まりました。エッセイの息子たちがサムエルの前に並び、サムエルの目に留まったのは長男のエリアブでした。サムエルは確信しました。これだ！もう決まりだ！堂々とした風格はまさに王者たるにふさわしいと思いました。サムエルは角の油壺に手をかけました。その時、神がサムエルの手を止めさせます。「容姿や背の高さに目を向けるな。わたしは彼を退ける。人間が見るようには見ない。人は目に映ることを見るが、主は心によって見る。」(7節)

年老いたサムエルはここでまた神のみ旨がわからなくなりました。人生に熟達し、人生の経験も豊かであるはずの自分であるはずなのに、まだまだ人を見る目が無いというのか…神のみ旨は、人生の経験が豊かで、神の僕として一生涯をあげて歩んできたサムエルにも計り知れないもの。神のなさることは、ときとして人間の常識や合理的判断を超えて不思議にしか映らなくなります。誰もが納得し、賛成するはずの長男エリアブがこうして神の選びからはずされます。長男の後から次々とサムエルの前に現われた七人の息子たちですが、この七人の中に神の選びはありませんでした。もう誰もいないのか、「あなたの息子はこれで全部ですか」と聞くサムエルに父エッセイは答えます。「末の子が残っていますが、今羊の番をしています。」番外の八番目の末っ子、ダビデに神の目が注がれました。

「立って彼に油を注ぎなさい。」神にとって最もふさわしい者が選ばれました。不思議な神の選びです。思えば昔もそうでした。イサクとリベカの長男のエサウではなく、弟のヤコブが選ばれました。ヤコブの十二人の息子たちの中で、十人の兄弟たちではなく十一番目の弟ヨセフが神に選ばれました。今また有能な兄たちではなく、番外の、八番目の、まだ少年である末っ子ダビデが選ばれたのです。

私たちは、ダビデはイスラエル民族最大の英雄だったから、この物語も彼に関する一連のまとまった英雄伝の一部を飾る

ものとして語り継がれていることを当たり前と思うかもしれません。あの巨人ゴリアテとの一騎打ちの痛快な話(17 章)も、典型的な英雄伝説と言えるものです。けれど、それに先立ってもっと大切なことを私たちは忘れないようにしたいのです。小さな田舎町ベツレヘムで、年寄りの預言者によって油注がれた物語は、人間的な英雄伝説に先立って、主なる神の選びが先ずあったのだということです。

神の選びは人間にはわかりにくいのです。いいえ、まったくわからないと言った方がいいでしょう。このサウルからダビデに渡る物語は、年寄りの預言者の嘆きや錯誤を織り交ぜながら、人間的常識とか合理的判断といったものを超えた次元に、神の選びがあることを示している物語です。一步誤ると、神の選び方は、私たちを不条理の世界に突き落としかねません。なぜ一方が選ばれ他方が選ばれないのか問いたくなくなるような物語でもあるからです。しかしここで一つだけこの物語が、つまり聖書が示そうとしている一つのことに思いを集中させてみたいですが、選ばれる人間の側に何らかの納得可能な条件や合理性を見ようとしてはならないということです。神は超越しておられる方です。人間はひたすらその前でへりくだるほかありません。使徒パウロがローマ書 9 章で焼き物師の粘土作品を比喻に神の自由な選びを論じたときも、結局のところ超越者でおられる神を小さな人間は讃美するだけだといったかったのではないのでしょうか。

人は目に映るところを見るが、主なる神は人の内面をみる。聖書はそう告げます。私たちはいつも自分の目に移るもので判断します。しかし、何度その結果を嘆いていることでしょうか。サウルからダビデに移る時期に、神に用いられている年寄りサムエルの物語は、神の御心を計り知れない人間の限界を感じさせますが、そんな嘆きをよそに、着々と一つの現実が進んでいるということ。わたしが自分の選んだ選びの結果に嘆いているうちに、神の計画は着々とわたしの先を進んで行くということ。それは人間の思いを超えて、人間の見るところによらずの進みです。

「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ。」(ヨハネ 15:16)。主イエスは弟子たちにこう言われました。神の選びを私たちが思い巡らせるとき、神のまなざしがまずこの私に注がれているという、厳粛な思いで受け止めることが大切ではないのでしょうか。

クリスマスの祝いを終えた私たちは、もう少しでこの年を送り、新しい年を迎えます。この一年間目に見えない姿で私たちのうちに宿ってくださり、共に歩いてくださった方に心から感謝したいです。そして、新しい年には、この方に倣って、自分を小さくして周りの人たちと交わる者でありたい。そして、どれだけ大事な働きであっても、店開かすようにするのではなく、謙虚に、主をこそ前に立ていただいて、誠実に関わる者でありたいと願っています。

【2008 年 1 月礼拝予定】

【主日礼拝】 毎週日曜日 朝 10 時 30 分～

1 月 6 日(日) 顕現主日

聖書：イザヤ 60: 1～6、エフェソ 3: 1-12、マタイ 2: 1-12

主題：罪人の中に現われる神

1 月 13 日(日) 主の洗礼日

聖書：イザヤ 42: 1-7、使徒言行録 10: 34-38、マタイ 3: 13-17

主題：主の僕の召命

1 月 20 日(日) 顕現節第 3 主日

聖書：アモス 3: 1-8、1 コリント 1: 10-17、マタイ 4: 12-17

主題：獅子がほえる

1 月 27 日(日) 顕現節第 4 主日

聖書：イザヤ 43: 10-13、1 コリント 1: 26-31、マタイ 4: 18-25

主題：主が呼んでくださった

(説教主題は今のところの予定です。変更になる場合もあります。)

【その他の集会】

- ・ 第一・三水曜日午前 11 時よりヨハネによる福音書を女性の視点から学んでいます。
- ・ 第二・四水曜日午後 7 時より夕礼拝を行い、旧約聖書から説教をききます。
- ・ 毎週金曜日午後 3 時より女性の視点による聖書の学びを行なっています。特に英語学校生徒を中心に、英語学校授業スケジュールに合わせて行なっております。
- ・ その他、随時(希望にあわせて)キリスト教入門講座・面談など行なわれています。